

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 平成17年度			
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	01 生活しやすいまちづくり
	小項目	施策	12 公共交通
事務事業名		01 JRへの要望事務	JRへの要望事務
根拠法令・規程等		担当課(室)	企画課
問		職・氏名	企画政策係長・田原義大
合		電話	0869-64-1871

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	JR
目的(何のために)	在来線の増便等の要望を行うことにより、通勤・通学・通院・買物等市民の主要移動手段であり地域交通の基幹となっているJR線の利便性の維持・向上、及び利用促進を図る。
行政活動(どのような方法で)	JR在来線(赤穂線、山陽本線)の市内運行について、増便(反減便)、延長運行、時刻設定、改札の利便性向上等に関し利用者及び地域住民の要望をまとめ、JRに対し直接あるいは関係機関を通じて要望する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	JR在来線の増便(反減便)、延長運行、時刻設定、改札の利便性向上につなげる。

事業の実績				
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
要望件数	件	1	2	3
直接事業費	千円	108	1,208	1,208
必要人員	人	0.12人	0.02人	0.02人
事業費	千円	108	1,208	1,208
国・県・市・道・支	千円			
出				
支				
担				
負				
率				
受				
益				
者				
負				
担				
比				
率				

結果指標				
結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
要望回数	件	1	2	3
対前年比	%	-	200.0%	150.0%
活動コスト	円	108	1,208	1,208
単位当たりコスト	円	108	604	403

事業の成果				
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
要望実現数	目標値(A)	1	1	1
	実績値(B)	1	2	3
	達成率(B/A)	100	200	300
到達目標値 1以上				
到達目標年度 毎年				
成果指標設定の考え方・式や説明				
要望に応え実現されたもの				

事業の目的、対象、内容を考えてから目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>		
市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	判定理由・課題認識		
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明	JR線は、通勤・通学・通院・買物等市民の主要移動手段であり地域交通の基幹となっている。JR線の利便性の維持・向上、及び利用促進を図ることは地域にとって不可欠であり目的は妥当である。	
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E>	
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	判定理由・課題認識	
有効性の評価	市民参画度	<input type="checkbox"/> 成果指標の達成は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E>	
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 成果指標の達成は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	判定理由・課題認識	

平成21年度の状況						
目標値	結果指標量①	結果指標量②			成果指標量	
	2	拡充	現状継続	見直し	縮小	1
状況	○					
説明	要望内容をより具現化し、実現に近づけよう改善する。					

総合評価		評価区分<A~E>
JRに対する要望は、利用者、地域住民の声を届け、要望の実現に向け働きかけることが重要である。利潤を求める民間事業者への要望はすぐに実現に結びつくとは限らないが、要望に反する改正を阻止する効果もあると思われる。公共交通の利用促進施策や、他市町との連携などとあわせ粘り強く働きかけを継続していく必要がある。		C

平成22年度以降の方向性・内容						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
	○					
説明	関係市町とのJRへの共同要望はもとより、国や県の広域計画策定時には、市町村提案として利便性確保を提案する。					
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果		
	効率性	より具体的な要望内容とする	平成21年度	要望の実現性を高める		